

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース/理学療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法研究法		必修	1	3	前期 (隔週)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
甘利 貴志 他	D320	takashi.amari	金曜日 16:00~17:00		
授業の目的・概要	昨今、エビデンスに基づいた理学療法の実施が求められるようになり、理学療法研究の活性化が求められている。本講義では、研究倫理、研究計画の立て方、論文執筆の方法等について学び、研究活動全般について理解することを目的とする。遠隔教育において、教材等を利用して理解し、その後のフォードバックと意見交換を行い、研究法に関する理解を深める。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	将来的に卒業研究や、自分が学会発表や論文発表をする可能性を見据え、積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めてほしい。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。				
参考書	理学療法研究法 第3版 / 編：内山靖、島田裕之 / 医学書院				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	研究の目的とその概要について理解し、説明できる。			PT (2)、(5)、(6)	
②	研究計画の立案と実施方法について理解し、説明できる。			PT (2)、(5)、(6)	
③	研究倫理と研究不正の問題などについて理解し、説明できる。			PT (1)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等		授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)	
1	研究の必要性：理学療法を取り巻く学際領域・なぜ研究が必要であるかということについて学ぶ。	[担当] 甘利	講義 PBL	理学療法を取り巻く学際領域について配布資料で確認する。	3
2	研究倫理：過去に行われた人体実験とヘルシンキ宣言、実験データの捏造、改竄などの研究不正について学ぶ。	[担当] 甘利	講義 PBL	過去に起こった研究不正、ヘルシンキ宣言などについて配布資料で確認する。	3
3	研究テーマの決め方：基礎研究、臨床研究の概要、文献検索の方法などについて学ぶ。	[担当] 甘利	講義 PBL	医学中央雑誌などを用いて文献を検索する。	4
4	研究計画の立案・実施 1：研究対象の選び方、計測・調査の方法などについて学ぶ。	[担当] 甘利	講義 PBL	興味のあるテーマをインターネットで調べる。	4
5	研究計画の立案・実施 2：データ収集について学ぶ。	[担当] 石井	講義 PBL	データ収集の方法を確認する。	4
6	研究計画の立案・実施 3：データ収集、データの解析・解釈方法などについて学ぶ。	[担当] 石井	講義 PBL	データの解析・解釈方法をインターネットで調べる。	4
7	研究計画の立案・実施 4：論文の書き方について学ぶ。	[担当] 石井	講義 PBL	論文の書き方を確認する。	4
8	研究計画の立案・実施 5：論文の書き方について学ぶ。	[担当] 石井	講義 PBL	論文の書き方を確認する。	4
試	成績評価 到達度評価・評価のポイント参照				

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース/理学療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	100	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	0	30	0	0	0	30
	思考・推論・創造する力	0	30	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	20	0	0	0	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	20	0	0	0	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	第 8 回目の講義の際に提出するレポート課題で評価する。特に、本講義を通した研究に関するレポート課題について、論理的かつ自分の言葉で意見を述べているかなどが評価のポイントになる (100 点満点)。				レポートの添削、返却
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	石井 智也						
教 員 の 実 務 経 験	臨床研究、人体構造学領域の研究に従事						
実 践 的 授 業 の 内 容	グループワークを中心にデータの収集方法、学術的な文章の書き方、発表の仕方を実践する。						
そ の 他	フィードバック、意見交換の機会は授業時間内に実施する。 学生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 大学の感染状況に基づいて対面授業を行う。感染状況によってはシラバスの内容を変更する可能性がある。						